

2015(平成27)年度 事業報告

2015年度事業報告

① 法人全体の運営と事業

項目	「第10回通常社員総会」開催
活動の内容	2014(平成26)年度の事業報告、決算報告、会費報告、2015(平成27)年度の事業計画、収支予算、役員改選等の報告を行いました。
概要	【日時】 2015(平成27)年5月17日(日) 15:00～16:30 【会場】 しいの実シアター

項目	理事会開催 年間 11回開催
活動の内容	<p>第74回 4月20日(月) 平成26年度決算報告の件、役員改選の件 かやぶき交流館運営の件</p> <p>第75回 5月11日(月) 平成26年度事業報告、決算報告の件</p> <p>第76回 6月 1日(月) 理事長、副理事長の選任の件</p> <p>第77回 7月 6日(月) 会員拡大の件、物販事業の状況報告と今後について</p> <p>第78回 8月 3日(月) 就業規則と給与規定の件、危機管理マニュアルの件 物販事業の状況報告の件</p> <p>第79回 9月 7日(月) 物販状況報告</p> <p>第80回 10月18日(日) 平成28年度事業計画(案)の件、職員勤務体制の件 「森の小さな演劇祭」レストランとフードショップ売上報告 借入金見込みの件</p> <p>第81回 11月19日(水) 旅費規程改定の件</p> <p>第82回 1月23日(土) 平成27年度予算執行状況の件、文化庁要望書の件 就業規則の一部改訂の件 国際アマチュア演劇連盟(IATA)世界大会開催の件</p> <p>第83回 2月21日(日) 佐草十字路広告塔の件 かやぶき交流館来年度事業の件</p> <p>第84回 3月30日(水) 法人組織図の件、50年冊子の製作・配付・増刷の件 財務状況について、</p>

項目	会員親睦交流会の開催
活動の内容	総会に引き続き、会員手作り料理で会員親睦交流会を開催しました。
概要	【日時】 2015(平成27)年5月17日(日) 17:00～19:00 【会場】 かやぶき交流館

項目	「松江市伝統芸能フェスティバル」のステージ運営委託事業
活動の内容	2012年度、2013年度に引き続き(2014年度は未開催)松江市より受託しました。 演出、司会、ステージスタッフを担当し、好評を得ました。
概要	【日時】 2015(平成27)年6月27日(土) 【会場】 島根県民会館

項目	他劇場職員の研修受入れ
概要	【日時】 6月～11月の間の39日において、出雲市芸術文化振興財団から職員1名を受



	入れて、施設運営の学びに協力しました。これは、文化庁事業の一つです。
--	------------------------------------

項 目	やくもネット事務局とポータルサイトの運営
活動の内容	<p>やくもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支える活動を行いました。</p> <p>また、八雲の情報をポータルサイトからの発信も担当しました。</p> <p>※通称「やくもネット」は、正式名称八雲町地域振興活動団体交流会といい、八雲町内の31の団体がひとつになり、八雲町の地域振興を目的に、情報の共有や連携をはかるために結成された会です。ポータルサイトは、「ようこそ八雲へ」で検索できます。</p>

項 目	島根演劇ネット事務局
活動の内容	<p>島根演劇ネットの事務局として、運営を支える活動を行いました。</p> <p>また、「高尾隆のワークショップリーダー養成講座」を企画し、島根県内のワークショップ指導者養成に努めました。</p> <p>※「島根演劇ネット」は、島根県内の演劇団体が加盟し、情報の共有や連携をはかるために結成された会で、「島根県文化団体連合会」の会員です。</p>

		実施日時	実施場所	従事者の人数	受益者の人数
研修視察	「雲にのる阿国」劇団鳥獣戯画視察	H27/5/8	東京・下北沢本多劇場	2名	不特定多数
研修視察	かやぶき交流館改善のための視察①	H27/5/20～21	広島市・手芸のマキ	4名	不特定多数
研修視察	かやぶき交流館改善のための視察②	H27/5/26～27	兵庫県和田山市	8名	不特定多数
研修視察	子どもと舞台芸術「出会いのフォーラム」視察	H27/7/23～24	東京・国立オリンピックセンター	2名	不特定多数
受入研修	インターンシップ生3名	H3/7・3/9～3/12	しいの実シアター	2名	—
研修受講	「地域と協働型の産業人材の育成」決起のつどい	H27/9/5	松江市市民活動センター	1名	—
研修受講	食品衛生責任者研修会	H27/10/20	島根県合同庁舎講堂	1名	—
発表受講	こりずにYAKUMO 地域おこし大発表会	H27/12/19	松江市アルバホール	9名	約230名
受講	イノベーションの作法	H27/12/21	米子市・鳥取大学医学部医療センター	3名	不特定多数
講師	演劇大学inくだまつ	H27/12/27	山口県下松市スターピアくだまつ	2名	150名
観劇	ハタチ族 365日公演 最終日	H27/12/31	雲南市チェリパホール	2名	—
受講	しまねの社会教育を学び語る集い	H28/1/14	八雲町アルバホール	1名	—
受入研修	インターンシップ生	H28/3/7～12	しいの実シアター	2名	

発表 受講	松江市NPO派遣研修報告会	H28/3/11	松江市役所研修室	1名	25名
----------	---------------	----------	----------	----	-----

サポート会の活動

サポート会の活動

項 目	サポート月例会
活動の内容	サポート会事務局メンバーが、サポート内容と方法についてを賑やかに話し合いました。
概 要	【日時】 2015(平成27)年4月6日、7月6日、8月29日、11月2日、12月7日 2016(平成28)年2月1日、3月7日 いずれも月曜日 【会場】 しいの実シアター

項 目	会員親睦交流会のサポート
活動の内容	サポート会事務局と専属劇団メンバーが、NPO正会員の方などを対象に親睦交流会を企画・開催し、手づくり料理を楽しんでいただきました。
概 要	【日時】 2015(平成27)年5月17日(日) 【会場】 かやぶき交流館

項 目	「セロ弾きのゴーシュ」「森の小さな演劇祭2015」のサポート
活動の内容	サポート会事務局メンバーが、公演の際の受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などをサポートしていただき、成功裏に終了することができました。
概 要	【日時】 「セロ弾きのゴーシュ」 2015(平成27)年9月6日、20日、10月4日、25日、11月15日、22日 (いずれも日曜日) 「森の小さな演劇祭2015」 2015(平成27)年9月17日(木)～21日(月・祝) 【会場】 しいの実シアター

項 目	しいの実シアター草刈りのサポート
活動の内容	地域の人たちや一般ボランティアの方の協力を得て、しいの実シアター敷地内の草刈りをサポートしていただきました。
概 要	【日時】 2015(平成27)年6月7日(日)

項 目	「落ち葉集め」エコ活動のサポート
活動の内容	多量に堆積する落ち葉を集めて、松浦造園(株)に回収・堆肥にしてもらい、シアターの樹木の施肥に活用する作業です。サポート会、正会員、専属劇団員、一般の方の協力を得て、毎年開催しています。



概 要	【日時】 2015(平成27)年12月13日(日) あいにくの雨でしたから、短時間の作業に終わりました。
-----	---

② 表現・コミュニケーション能力育成事業

この事業の目標

表現力・コミュニケーション能力の向上

今年度も、コミュニケーションワークショップ講師として、学校、企業、地域へ出かけました。

合計86回、のべ2,671名の方にワークショップを提供しました。

	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益者の人数
① 学校				
講師	松江市立八雲小学校 3年生2クラス×12回(計24回)/年間48時間 島根県「文化芸術次世代育成支援事業」	H27/6/9~12/11 松江市立 八雲小学校	延べ 72名	延べ 684名
講師	大田市立仁摩小学校 1~6年生×各3回(計18回) 島根県「文化芸術次世代育成支援事業」	H27/6~H28/2 大田市立 仁摩小学校	延べ 54名	延べ 570名
講師	邑南町立市木小学校 全学年×3回 島根県「文化芸術次世代育成支援事業」	H27/6/17 H27/7/9 H27/9/29 邑南町立 市木小学校	延べ 3名	72名
講師	飯南町立頓原中学校 全学年×3回(計8回) 島根県「文化芸術次世代育成支援事業」	H27/6/18 H27/9/24 H28/1/28 飯南町立 頓原中学校	延べ 8名	延べ 163名
講師	松江市立八束学園(八束小学校) 4年1回、5、6年生各2回(計7回) 文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験 事業」芸術家派遣事業	H27/6/25 H28/2/17 松江市立八束学園 (八束小学校)	延べ 7名	延べ 133名
講師	広島市立五日市中学校 新入生コミュニケーションワークショップ 1年生9クラスを3回に分けて	H27/4/14・15 広島市立 五日市中学校	延べ 12名	300名 (教職員含 む)
講師	出雲市立高松小学校 教師職員ワーク	H27/8/6 高松小学校内	1名	30名
講師	出雲市立高松小学校 3年生3クラス×2回	H27/9/16 H27/10/21 高松小学校内	1名	のべ 196名
講師	宇部市文化財団「宇部市子ども夢教室」	H27/11/9.10 宇部市立 二俣瀬小校、 船木小学校	延べ 4名	延べ 54名



		実施日時	実施場所	従事者の人数	受益者の人数
②企業、地域、PTA、その他					
講師	尚風館 「コミュニケーションタイム」	H27/6/13	松江歴史館 指南所	1名	17名
講師	まつえ市民大学 いきいきライフコース、ふるさと発見コース コミュニケーションワークショップ(計2回)	H27/5/22 H27/6/2	松江市 スティックビル	延べ 6名	70名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 東部研修(計2回)	H27/7/25 H27/11/28	松江市 しいの実シアター・ かやぶき交流館	延べ 4名	延べ 66名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 西部研修(計2回)	H27/7/11 H27/11/7	浜田市 いわみ〜る	延べ 4名	延べ 42名
講師	松江市立幼稚園・部会職員研修 「人とかかわる力を育てる部会」 コミュニケーションワークショップ	H27/7/29	松江市 しいの実シアター	2名	20名
講師	出雲市立高松小学校職員ワークショップ	H28/8/6	出雲市立高松小学校	1名	23名
講師	島根県看護協会 「助産師職能新人研修」	H27/8/21	島根県看護 研修センター	1名	17名
講師	ITC米子コミュニケーションワークショップ	H27/12/9	米子全日空ホテル	1名	36名
講師	八雲公民館 青少年活動ワークショップ	H27/12/25	八雲公民館会議室	1名	40名
講師	島根公民館 青少年活動ワークショップ	H28/3/5	サンレイク	2名	35名
講師	大田市中央公民館 青少年ワークショップ	H28/3/13	大田市中央公民館	1名	7名
合 計				217名	3,025

③ 物販事業

この事業の目標 物販収益によって運営費を補う

あしぶえでは「同じ売るなら、おいしく、健康にいいものを」と、お客さまに喜んでいただける、こだわりのグッズを販売し、法人の運営費を補っています。

27年度からは、新規に物販事業をスタートし、事業収益増に努めました。

これまでは、公演当日の販売が主な収益でしたが、かやぶき交流館で常時販売可能になったことで、これまでより販売の動きはよくなっています。

売れ筋は、前年に同じく「あしぶえせんべい」です。

かやぶき交流館では、あしぶえが管理運営を任される以前から物販を行っていたため、お客さまに定着した商品もあり、物販購入のためにわざわざ訪れる方もありました。少しずつではありますが、雑貨の取り扱いも開始しました。(写真右)



活動の内容	しいの実シアター、かやぶき交流館で販売。	
商品	あしぶえせんべい (蜂蜜・黒豆)	各 300円
	紅茶	500円
	煎茶	600円
	有機番茶	200g 500円
	塩コショウ	500円
	栗国の塩(250g)	750円
	ざらめ糖	850円
	わら漉き込み半紙	500円
	おばちゃんみそ	550円
	アイスクリーム (かやぶき交流館限定)	各種 80円～120円
	その他、安部栄四郎記念館の小物や、八雲町でとれた梅の加工品などもあります。	



④ しいの実シアターの管理・運営事業

この事業の目標

しいの実シアターを市民が親しむ劇場に

しいの実シアターの運営方針

このシアターは、自然溢れる林間に建設された国内最小で演劇専門の公立劇場(108席)であることを魅力にして、年齢、性別、国籍、障害の有無にかかわらずあらゆる人々を対象に、より質の高い劇場運営を推進することによって地域の人々に愛され、地域の諸課題に対応する優れた劇場として発展していくことを目指す。具体的な運営方針は7つ。

- ①親しみやすくクオリティの高い作品を創造・発信していく。
- ②企画制作、舞台運営、事業運営、創造発信等のスキルを高めるため、専門的人材を養成・確保する。
- ③劇場における演劇の普及啓発を推進すると共に、学校等での公演も行う。
- ④他劇場及び芸術団体、学校・大学、地域等との連携・協力を図りながら、社会課題に対応していく。
- ⑤国際的なフェスティバル開催等により、国内外の人たちが出会い、文化交流できる取組を行う。
- ⑥利用者のニーズ等を把握・分析して事業の充実を図り経営の安定化を目指す。
- ⑦劇場が安全かつ快適な施設として維持されるよう努める。

27年度の主な活動内容

1. 念願が叶って、ソフト事業費が計上されました

平成7年度に劇場が建設されて以降、建物管理費は計上されていましたが、いわゆるソフト事業費はありませんでした。その歪みを是正するため、平成20年度から「芸術文化教育振興補助金」という形で手当され、27年度になって初めて、この補助金をシアターのソフト事業費として、指定管理料に一本化されました。長い間待ち望んでいたことです。

2. 完備された法に沿って、最大限の努力による事業運営を行いました

平成13年に、「文化芸術振興基本法」が制定され、平成24年6月27日には「劇場・音楽堂等活性化に関する法律」(法律第四十九号)が施行されました。その後、平成25年には、「劇場・音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」(文部科学省告示第60号)が出され、劇場を設置し又は運営する者の役割が明確に定められました。

これにより、法律を遵守して企画・運営を行うことが求められるようになってきました。

あしづえでは、法が完備される以前の平成 22 年度から文化庁の「劇場・音楽堂等活性化事業補助金」を受けて事業を実施してきました。それは、年々、しいの実シアターに対する市民の期待が高まってきていること、また、少子化、人口減等の将来を見据えての事業計画や事業展開が必要になってきたことによります。

そして、26 年度からは、法に書かれている「社会包摂」という考え方で事業を計画し実施してきました。つまり、劇場は演劇を創り、上演し、観客を増やすだけの場ではなく、少子高齢化、障がい者、在日外国人、国際交流等にも対応すること、また、教育や観光等の社会の諸問題に向き合って解決を求める場であることを目指してきました。

そのため、27 年度も文化庁補助金を受けましたが、一本化された事業費予算は 545 万円に限られており、いわゆる補助裏にあたる不足分は、あしづえ負担となりました。その理由は、演劇祭の開催年である 26 年度は、実行委員会予算を補助裏に充てることができましたが、開催後年の 27 年度は人件費及び諸雑費のみで、事業費が予算化されていないことによります。その結果、不足分の 375 万円分は、あしづえが実施するコミュニケーションワークショップ事業等の他の事業収入、NPO 会費収入、寄付金収入を充てて賄いました。指定管理者としては、最大限の努力による運営を行って市民サービスに努めました。

3. 優秀な事業運営が文化庁に認められました

平成 28 年度分として文化庁へ「劇場・音楽堂等活性化事業」の「活動別支援」補助金を要望したところ、全国から 122 件の応募があり、99 件が採択されました。その中で、優秀な 2 施設が 3 年採択となりましたが、しいの実シアターはこのうちの 1 施設として高く評価されました。

27 年度に実施した事業は次のとおり（1 年採択）

公 演 事 業 ①「ゼロ弾きのゴージュ」公演 ②「森の小さな演劇祭」

人材養成事業


- ①「ワークショップリーダー養成講座」
- ②「俳優のための身体表現力養成講座」
- ③「国際演劇祭専門スタッフ人材養成講座」
- ④「子どもと芸術講演会」
- ⑤「人形劇秘密の裏側 観劇」
- ⑥「大学等との連携」

貸 館 貸館事業として17回、16団体の利用がありました。

施 設 管 理 ボランティアによるしいの実シアター草刈り
「落ち葉集め」のエコ活動

以下、各事業について報告します。




事業名	公演事業 ① しいの実シアター開館20周年記念 あしづえ公演「セロ弾きのゴーシュ」 		分野	演劇
			創作種別	新演出
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業			
概要	<p>【期間】 2015(平成27)年9月6日、10月4日、10月25日、11月15日、11月22日 日曜日 11:00~12:00、14:00~15:00 (全10回)</p> <p>【会場】 しいの実シアター</p> <p>【料金】 一般 2,000円(当日2,500円) U-30(20~29歳) 1,500円(当日1,800円) U-20(19歳以下) 800円(当日1,000円)</p>			
会場	しいの実シアター			
上演時間	60分			
スタッフ	<p>原作:宮沢賢治、演出:園山土筆、照明:稲田道則 音楽:斉藤浩、衣裳:森田雅子、小道具:長見好高、照明操作:門脇礼子 音響操作:竹内菜津子、舞台進行:田中小百合</p>			
キャスト	<p>ゴーシュ:秋山裕樹 ねこ:松浦優海 カッコウ:中村千恵子 子だぬき:有田美由樹 野ねずみのおっかさん:増谷京子 楽長:伊達生 楽手:有田美由樹、松浦優海、 中村千恵子、増谷京子、上田郁子</p>			
ボランティア (50音順) 延べ 157名	<p>安達広和、安達淳子、荒川嘉代子、有田美由樹、石原貞子、糸原成子、稲田仁美、伊藤あきな、稲田翼、今岡志佐子、上田郁子、内田晋介、岡田栄子、恩田淳子、加藤裕子、神谷一男、木村早紀、佐伯奈美、坂本洋子、白鹿弘子、須山佐智美、須山勝、須山美玲、曾田章子、園山土筆、園山美月、武田明夫、田中小百合、長根山研二、中嶋寛子、中村小雪、中村千恵子、中村柚花、花房陽子、林朋美、林睦人、原田陽子、引野幾子、深江葉月、福田幸善、古舘諭、堀江久世、松浦紘子、松浦磨耶、真野弘子、三島秀子、三島操子、三島陽子、宮山凜、柳浦恵美子、吉岡純子、吉岡美紅、吉原奈美、米田裕幸</p>			
入場料	<p>30歳以上 前売2,000円(当日2,500円) 29歳以下 前売1,500円(当日1,800円) 19歳以下 前売 800円(当日1,000円)</p>			
入場者数	835名 (入場者率76%)			
チケット販売数	594枚			
稽古公開 ゲネプロ公開	<p>稽古公開参加者数 30名 ゲネプロ公開参加者数 42名</p>			
後援	<p>島根県、島根県教育委員会、松江市、松江市教育委員会、松江市文化協会、山陰中央新報社、中国新聞社、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、朝日新聞松江総局、産経新聞松江支局、島根日日新聞社、NHK松江放送局、山陰中央テレビ、BSS山陰放送、日本海テレビ、エフエム山陰、島根県ケーブルテレビ協議会、島根演劇ネット</p>			
プレイガイド	<p>島根県民会館総合インフォメーション、プラバホール、ビッグハート出雲 チェリヴァホール、米子市文化ホール、今井書店、ローソンチケット</p>			

趣旨・目的	しいの実シアター開館20周年を記念して、平成元年から150回上演し3万人に提供してきた「セロ弾きのゴーシュ」を在日外国人や海外からの観光客、また、海外公演でも確かな評価が得られるよう新演出で創り直した。
あらすじ	楽団で一番下手なゴーシュは楽長に叱られてばかり。音楽会を控えて猛練習のゴーシュの家へ動物たちがやってくる。彼らから大切なことを教わるが、時間がないゴーシュは焦って思わずカッコウを傷つけてしまう。気づかないうちに上達していたのだと知ったゴーシュは、カッコウに謝るのだった。
成果	①舞台装置を一切使わず、机と椅子、シンプルな照明と衣裳によって具象から抽象に向かい、新演出によって多くの観客に感動をもたらすことができた。 ②ゴーシュ役はチェロ奏者から、動物のねこ、カッコウ、子だぬき、野ねずみの各俳優は 身体表現講師から、楽長役は指揮者から、各自丁寧な指導を受けて、それぞれが演技力をアップすることができた。このことによって、作品全体のクオリティが高まった。
課題	27年度公演事業として、「森の小さな演劇祭」を9月に開催し、9月～11月に「セロ弾きのゴーシュ」を開催することになっていた。ところが、「演劇祭」が大変盛り上がったため、「ゴーシュ」公演も終了したと思われて、演劇祭終了後は「ゴーシュ」のチケット受注がなくなってしまった。初めての体験で驚いたが2種類のチラシを同じ形態で作ったこと、本番日よりも稽古・ゲネプロ日の記事のほうが目立ったこと等の理由による混乱であることが分かった。以後、大いに注意しなければならぬと痛感した。
国内外への発信	あしぶえの公演事業としては初めて、松江市内の幼保・小学校の全児童にチラシを配付した。また、過去にしいの実シアターや八雲国際演劇祭で上演した海外劇団へ情報発信した。



「セロ弾きのゴーシュ」の一場面



事業名	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">公演事業</div> ②			分野	演劇
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業				
連携	四国学院大学				
目的	平成11年から3年に1度「八雲国際演劇祭」を開催し、26年度の「第5回」では、上演内容、運営方法、ボランティア活動等目覚ましい飛躍を遂げた。その一方で更に改善すべき点も明確になったため、しいの実シアター事業として、27年度と28年度に「八雲国際ミニ演劇祭」を実施して、3年後の「第6回」に備えることにした。				
実施期間	2015年9月17日(木)～9月21日(月・祝)				
会場	しいの実シアター、かやぶき交流館				
入場料	大人(19歳以上) 500円～2,000円 子ども(18歳以下) 500円～1,000円 会期中は、空席がある場合のみ、大人500円、子ども300円アップでチケットを販売。				
観劇者数	1,296人	入場者数 参加者数	のべ2,280人		
後援	アルゼンチン大使館 島根県、島根県教育委員会、島根県文化団体連合会、山陰中央新報社、中国新聞社、朝日新聞松江総局、毎日新聞松江支局、読売新聞松江支局、産経新聞松江支局、NHK松江放送局、山陰中央テレビ、BSS山陰放送、エフエム山陰、島根県ケーブルテレビ協議会八雲町地域振興活動団体交流会(やくもネット)				
プレイガイド	島根県民会館文化情報コーナー、今井書店(グループセンター店・学園通り店) 一畑百貨店、プラバホール、チェリヴァホール、ビッグハート出雲 米子市文化ホール、ローソンチケット				
成果	①ぼぼたあむ「ふたりのお話」は、幼児から高齢者まで幅広い層に喜ばれた。 ②「セロ弾きのゴーシュ」も朗読・演劇・チェロコンサートと、3分野の競演であったため、作品理解が進んだ。 ③「スズの兵隊」は、昨年度観客数に苦戦したが、今回は2回目とあって口コミで作品の良さが広がって、安定した客数となった。 ④ボランティアをフェスティバル・クルーと名称変更したことで、メンバーから大変喜ばれ、各持ち場で楽しく活動するだけでなく、観劇体験や永野むつみ氏の講演も聞くなどボランティアの文化度向上にも寄与した。				
発信	①松江市内の幼保・小学校、中学校の全生徒にチラシを配付した。 ②過去にしいの実シアターや八雲国際演劇祭で上演した海外劇団へフェイスブック等で情報発信した。				
内容	3ヶ国7作品を上演				
	日本	人形劇団ひぼぼたあむ	「ふたりのお話」		
	日本	あしづえ	「セロ弾きのゴーシュ」		
	日本	下重暁子	朗読「セロ弾きのゴーシュ」		

	日本	野津真亮	「ゴーシュにまつわるチェロコンサート」
	日本	永野むつみ	講演「今こそ芸術の力で人育てを」
	アルゼンチン	オマール・アルヴァレス パペットリー アートカンパニー	「スズの兵隊」
	チェコ		映画「真夜中の大冒険」
ボランティア (50音順) 78名	秋鹿智子、秋山裕樹、吾郷史郎、安達広和、安部由梨、荒川嘉代子、有田美由樹、石倉玲子、石和田良美、伊藤あきな、伊藤寿子、稲田翼、内田晋介、遠藤ひとみ、岡田栄子、岡本美奈子、小澤晶子、恩田淳子、加藤篤、加藤久美子、加藤裕子、門脇礼子、神谷一男、神庭稔明、神庭麻起子、木村早紀、北川美知子、小谷友貴、坂本洋子、佐々木俊之、佐藤彰子、白鹿弘子、周藤輝、須山佐智美、須山貴公、須山遥香、須山勝、須山美玲、清山郁美、曾田章子、武田明夫、田中小百合、中尾禎仁、長廻亘平、長根山研二、中村千恵子、中村和可子、柳楽紫、成相果耶、野津喜久雄、野津百合子、花房陽子、林朋美、林耀暉、福井健吾、福田幸善、藤井昭次、藤井貴子、古川弘美、古舘諭、堀江久世、松浦紘子、松浦マヤ、三島拓生、三島秀子、三島操子、三島陽平、三津妙子、三島良治、村下雄貴、矢頭英士、山根順子、吉岡純子、吉岡寿美男、吉岡光子、吉原奈美、米田裕幸、若槻ゆう		
課題	しいの実シアターの指定管理料の事業費予算が限られていたため、運営に苦慮した。		



アルゼンチン

オマール アルヴァレス・パペットリー
アートカンパニー


「スズの兵隊」


人形劇団ひぼぼたあむ


「ふたりのお話」







事業名	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">人材養成事業</div> ① 第3回ワークショップリーダー養成講座 
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業
目的	コミュニケーション力をつけることは、現代社会で切実に求められており、あしぶえへのコミュニケーションワークショップの依頼は年々増え続けている。しかし、当地で本格的にワークショップ講師を務められるのは数少ないため、全ての要望に応えきれない。新たな講師の養成を急ぎ、社会のニーズに応じていく必要がある。
概要	【日 程】 2016(平成28)年1月30日(土)～31日(日) 【会 場】 しいの実シアター 【講 師】 高尾隆氏 (東京学芸大学芸術・スポーツ科学系音楽・演劇講座演劇分野准教授) 【対 象】 あしぶえコミュニケーションワークショップ講師 島根鳥取両県のコミュニケーションワークショップ指導者 【参加費】 4,000円 土曜のみ3,000円 日曜のみ2,000円 【参加数】 延べ25名
成果	平成25年度から継続的に実施しているため、真剣に学ぶ受講生増えてきた。参加者それぞれが抱えている悩みや本講座に期待することを意見交換し、それに対応できるゲーム等を実施し、大変喜ばれた。高尾氏からは、「しいの実シアターは、心を開放しやすい劇場で、ワークショップや即興演劇に最適な劇場だ」との評価を得た。
課題	高尾氏からの学びはとても内容が高いものであるが、来年度は海外への研修に行かれるため、新たな講師を見つける必要がある。


事業名	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">人材養成事業</div> ② 俳優のための身体表現力養成講座 
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業
目的	「セロ弾きのゴーシュ」の動物役である俳優の身体表現力向上をねらいとして、2名の講師を招へいし、表現力の向上を図る。
概要	【日 程】 2015(平成27)年4月～10月 【会 場】 しいの実シアター 【講 師】 田中禎子氏(5回実施) 智春氏(3回実施) 【対 象】 あしぶえ専属劇団員
成果	①田中禎子氏からは、俳優一人ひとりの身体の特徴を指摘され、俳優としてよりよい身体づくりを進めるための個人指導を得た。 ②智春氏からは、動物の動きをいかに観ていなかったかを知り、観察眼を高めてディテールを表現する重要性を学んだ
課題	今後、継続的に学んで、確かな表現力を身につける必要がある。

事業名	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">人材養成事業</div> ③ 国際演劇祭専門スタッフ人材養成講座 
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業
目的	演劇祭におけるボランティアスタッフのプロ化を図って、どんどん地元から人材を輩出していくシステムをつくる。
概要	【日 程】 2015(平成27)年4月～10月 【会 場】 しいの実シアター 【講 師】 園山土筆、有田美由樹 【対 象】 八雲国際演劇祭及びシアターのボランティアスタッフの内の希望者
成果	毎回、討議形式で実施したため、様々な不明点や課題についてじっくり話合うことができた。
課題	28年度は、国内の他施設を訪問し、更なる力をつけたい。

事業名	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">人材養成事業</div> ④ 「子どもと芸術」講演会 
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業
目的	現代の子どもたちになぜ芸術が必要かを届けていく
概要	【日 程】 2015(平成27)年9月20日(日) 【会 場】 かやぶき交流館 【講 師】 永野むつみ氏(人形劇団ひばりあむ 代表・俳優) 【対 象】 一般及びボランティアスタッフの内の希望者
成果	様々な事例をあげて、芸術の必要性を知ることができたが、内容が高かったため、もっと、聴きたいという再度の講演会の希望が多かった。
課題	28年度、もう1度、開催予定。

事業名	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">人材養成事業</div> ⑤ 人形劇秘密の裏側観劇 
助成	文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業
目的	人形劇がどのようにして創作され、上演されているかを実際に舞台の裏側から観劇して、その奥深さを知る。
概要	【日 程】 2015(平成27)年9月19日(土) 【会 場】 しいの実シアター 【上 演】 人形劇団ひばりあむ 「ふたりのお話」
成果	参加者は、舞台現場の緊張感、俳優同士の連携、人形操作の技術の高さに驚いていた。鑑賞者の輪が広がる実感を得た。
課題	継続していく必要がある。



<p>事業名</p>	<p>人材養成事業 ⑥</p> <p>大学等との連携</p> 
<p>助成</p>	<p>文化庁 平成27年度劇場・音楽堂等活性化事業</p>
<p>目的</p>	<p>①インターンシップの実施 大学生が就職後、「想像していた職場と違って」と、就職3年以内で離職する問題が生じている。この課題解決のため実際の職場を体験することが出来る制度がインターンシップである。この制度により、学生は、民間企業だけでなく、劇場運営の現場を知ることができ、劇場は優秀な人材と出会えるチャンスが生まれる。</p> <p>②講師等の派遣 大学では、学生を採用した企業から「新卒は役に立たない」と苦情がきて困っていた。学生が就職後、困らないよう、社会人としてのコミュニケーション力をまなぶことができないか、と大学から相談を受け、その対応としてあしぶえの講師が大学で授業を行うことになった。あしぶえは18年前からワークショップリーダーの学びと実践を開始しており、学生の実状に即したオリジナルのカリキュラムと評価方法を作成して実施する。</p>
<p>概要</p>	<p>【日 程】 ①は、2015(平成27)年8月17日～21日、 9月5日～9月9日、9月17日～21日 2016(平成28)年3月7日～12日</p> <p>②は、2015(平成27)年4月9日1回、保育学科54名 4時間 4月13日～7月13日の13日のべ52時間</p> <p>【会 場】 ①の会場は、しいの実シアター ②の会場は、島根県立大学短期大学部体育館</p> <p>【カリキュラム】 ①は、劇場運営やアートマネジメントに興味を持っている大学生を受入れ、5日間、劇場業務を体験してもらい、日々、意見交換する。 ②は、初回はオリエンテーション。2回目からは1グループ20名でインプロゲーム と振り返りを行う。</p>
<p>成果</p>	<p>①インターンシップの実施 劇場のプロスタッフとなり得る学生が数名あり、その中の一人は、インターンシップ終了後も、シアターを訪問して卒業時には就職したい旨の申し出があった。</p> <p>②講師等の派遣 学生が大学でコミュニケーションワークショップを受けることで、積極性、観察力周りへの配慮、協調性等が少しずつ育成されてきて、大学からは確かな評価が得られている。</p>

<p>会議</p>	<p>平成27年度 県立大学短期大学部松江 キャンパス教育連携協議会</p>	<p>H28/2/9</p>	<p>島根県立大学 短期大学部</p>	<p>1名</p>	<p>16名</p>
-----------	---	----------------	--	-----------	------------

<p>会議</p>	<p>平成27年度 鳥取・島根高等教育 フォーラム</p>	<p>H28/2/19</p>	<p>米子コンベンションセンター</p>	<p>1名</p>	<p>80名</p>
-----------	--	-----------------	----------------------	-----------	------------

⑤ かやぶき交流館の管理・運営事業

この事業の目標

市民の文化拠点としての施設運用及び劇場との連携

昨年4月から『かやぶき交流館』の指定管理を受け、様々な活動を行いました。

<自主事業>

1. 将来計画を描きながら最大限の努力を行いました

指定管理業務の1年目でしたが、全松江市民から親しまれる交流施設となるよう「設置目的」と「運営方針」に基づいて将来計画を描きながら運営しました。

築120年の建物は、昔を懐かしむ高齢者はもとより、近年は若い人たちの憧憬の的でもあります。また、将来的にも「八雲国際演劇祭」の拡大・発展に果たす役割は非常に大きいものがあります。2019年招致予定の「国際アマチュア演劇連盟世界大会」開催時にも、重要施設となることが予想されています。こういった状況を踏まえて、28年度はボランティアを募って人的にも最大限の努力を行ないました。費用面では、長年あしづえが積み立ててきた寄付金を捻出して対応しました。

利用者数は前年度比147.2%増、利用料は133.7%増でした。

2. 創意工夫の広報で、積極的に施設の利用促進を図りました。

広報予算が計上されていない中で、いかにして、松江市民全体に広報を行っていくかが課題でしたが、あしづえが、しいの実シアターで上演する「ゼロ弾きのゴーシュ」のチラシの1ページを割いて、かやぶき交流館の記事と貸館情報を掲載し、市内全域に20,000部配布し、費用はあしづえが負担しました。

また、あしづえが創立50周年を迎えるにあたって作成した小冊子「これまでの50年、これからの50年」の見開き1ページを使って、貸館情報記事を掲載しました。これは、6,000部印刷し、今後、松江市民のほか、国内各地に配布していく予定です。この広報記事は、ページ数を按分し指定管理料の費用に計上しました。更に、しいの実シアター及びあしづえのホームページに当施設のの記事も掲載して、広報に努めました。

3. 施設の特徴を活かした事業を実施し、市民サービスに努めました

9月17日～21日の5日間、しいの実シアターで開催された「森の小さな演劇祭」と連携して、公演事業と昼食提供事業を実施しました。

公演事業では、「ゼロ弾きのゴーシュにまつわるチェロコンサート」とチェコのアニメ映画「真夜中の大冒険」の上映、人形劇団ひぼぼたあむの代表・永野むつみ氏の「今こそ、芸術で育ててを」の講演会を実施しました。

昼食提供事業では、広島から食堂経営者をボランティアスタッフに迎えたり、地元のボランティアスタッフによる昼食提供を行いました。



項 目	「カラコルム絨毯展」を開催
活動の内容	広島市と福岡市のアーティストと連携して実施した。 しいの実シアターの「ゼロ弾きのゴーシュ」公演に合わせて実施した。
概 要	【期間】 2015(平成27)年10月1日(木)～5日(月) 【入館者数】 120名 【成果】管理料に広報予算は計上されていないため、「ゴーシュ」公演のチラシに掲載して、集客した。観客からは、観劇の他にも楽しみができたという好評だった。 この展示により、今までかやぶき交流館にきたことが無い人が多々訪れた。 【課題】高額商品であるため、ニーズにあった誘客が必要だった。

項 目	「冬の贈り物展」を開催
活動の内容	「ゴーシュ」のチラシに広報掲載して、「冬の贈り物展」を開催し、集客に努めた。
概 要	【期間】 2015(平成27)年11月6日(金)～9日(月) 【入館者数】 475名 【成果】雨天にもかかわらず、多数の来場者で賑わった。 こんなセンスのいい品物を展示しているのか、という感想が多く聞かれ、その分、施設への好感度が高まった。 【課題】展示品の内容が当地域のニーズと合っていない商品が一部あった。 展示する品物と購買層が合うことが大切だと痛感した。

項 目	森の小さな演劇祭（八雲国際ミニ演劇祭）レストラン
活動の内容	「森の小さな演劇祭」開催時、しいの実シアターと連携して、開店した。
概 要	【期間】 2015(平成27)年9月19日(土)～21日(月・祝) 11:30～14:00 【入館者数】 475名 【成果】近くに食事処が無いため、観劇の前後に予想以上の来店者があり、初めて訪れる人たちからは、かやぶきの建物を懐かしむ声が多々あった。 【課題】食事メニューの工夫、接客のスキルアップ等を図る必要がある。

<施設管理>

1. 快適な環境をつくり、利用促進を図りました

利用者の増加を図るため、すべての障子の張替、新畳の設置、ランプシェードの交換を実施。冷蔵庫は劣化が進んでいたため、中古の冷蔵庫を無料でもらい受けて設置しました。また、囲炉裏の火焚きから生じた煤で建物全体の清掃が必要であったため、ボランティアを募って数週間にわたって行い、快適な施設保持に努めました。また、座敷への上がり框に大きな板敷きを作って設置し、高齢者が安全でしかも楽に移動することができるようになりました。

八雲町では、4月から5月にかけて、地元の青年たちが中心になって鯉のぼりを掲揚しており、本年から八雲町内の各施設、団体、個人に鯉のぼりセットを提供し、各地域での鯉のぼり掲揚の協力を求めています。これに協力・協賛するために、鯉のぼり用の土台を作り、28年度の4月には掲揚できるよう準備しました。この費用は寄付金収入で賄いました。

2. 積極的な「貸館利用のすすめ」を行って、利用増を図りました

あしぶえのネットワークを活用して、「貸館利用」を多方面に広報しました。

以下、主なものを記載しています。

- ① 麦風工房 15周年記念「大人の土遊び」(松江市玉湯町)495人
- ② 勝手に広報局 (松江市玉湯町)27人
- ③ リフレクションしまね 交流会 (松江市北陵町)30人
- ④ 癒しのお茶会 (松江市西津田)61人
- ⑤ 平成27年度しまねアグリビジネス実践スクール (松江市朝日町)25人
- ⑥ 保育士採用2～5年目研修 (松江市東津田町)37人
- ⑦ かやぶき屋根の音浴会—波紋音コンサート (出雲市中野美保南)37人
- ⑧ 森の小さな演劇祭 (松江市八雲町)約600人
- ⑨ 保育士採用2～5年目研修 (松江市東津田町)32人
- ⑩ 地域おこし協力隊説明会 (松江市八雲町)30人 ほか



⑥ 八雲国際演劇祭の運営に関わる事業

この事業の目標 「八雲国際演劇祭」で人づくり・まちづくりを

今年度は、下記の活動を行いました。

「森の小さな演劇祭」は、しいの実シアター事業として実施したため、ここには掲載していません。

1. 記録誌によるPR活動を実施

「第5回」の記録誌を、国内外に配付し、「八雲国際演劇祭」の飛躍を広く知ってもらい集客につなげるほか、地域企業等への支援協力の依頼を行いました。

2. 高額寄付企業への返礼ワークショップの実施

一畑電気鉄道㈱ 職員ワークショップ	H28/2/25	本社 会議室	派遣講師1名	28名
山陰中央テレビジョン放送㈱ 若手職員研修	H28/2/26	しいの実シアター	派遣講師1名	16名